

# 耳

二年

画数 6  
筆順 一 冫 巨 耳  
オン ジ  
クン ミ

成り立ち



「耳」のかたちをあらわした字で、「みみ」というみをあらわしたものです。

「耳」は、おとやこえをきくところですから「きく」といういみにつかわれます。たとえば、「耳にする」といえば、それは「きく」といういみです。

「耳」は、かおのりようわきについています。それだなべやかまなどのりようわきについている「とつて」のことを「耳」ということがあります。

「耳」が「とつて」のいみにつかわれるようになりますと、りようわきについていない「とつて」でも「耳」ということがあるようになりました。

使い方

▽よく耳をすましてきくようにしなさい。

▽かぜがもとで中耳炎になりました。

▽耳障りなおとがするが、なんのおとだろう。

熟語例

▽耳目 ①耳と目。②きくこととみること。③ひとびとのちゆうい。例ひとの耳目をひく。

▽耳鼻科 (耳や鼻のびようきをなおすところ)

▽中耳炎 (耳は、外耳、中耳、内耳とあり、中耳がえんしようをおこすびようきのこと。)

▽耳障り (きいて、きにさわること。きいてふゆかいになること。)

▽耳寄り (耳をよせてよくききたいとおもうこと。ききたいとおもうような「よいはなし」のことを「耳寄りなはなし」といいます。)

▽空耳 ①じっさいはなんのおともしないのに、したようなきがすること。②きかないふりをすること。)

▽耳順 (六十さいのこと。こうしが「六十さいになったら、ひとのどんないけんでもれいせいにきけるようになった」といったことから。)

使い方

▽たなばたまつりは「七月七日」の夕がたにおこなわれますので、「七夕」とかいて「七夕」とよみます。

熟語例

▽七色 (あか、だいだい、き、みどり、あお、あい、むらさぎの七つの色。にじのいろ)

▽七草 (春の、せり、なずな、すずな、すずしろ、ほとけのぎ、ごぎよう、はこべ。秋の、はぎ、おばな、くず、なでしこ、おみなえし、ふじはかま、さきよう、七いろの草をいいます。)

▽七情 (よろこび、いかり、かなしみ、おそれ、あい、にくみ、よく、の七つの感情)

# 七

二年

画数 2  
筆順 一 七  
オン シチ  
クン ナナ

成り立ち



針のさきが「切断した(おれる)」かたちの字で「切(きる)」のもとの子。

針(十)の三ぶがかけて、七ぶほどのこったかたちで、「ななつ」のいみをあらわしました(針は「十」がもとの字です)。